

## 日朝二千年の友好

～以下、『あすの話題 二千年の友好』（古舘晋<大阪ガスCEL研究所顧問>）<日経新聞（00.7.12）>～

（引用者：日本と朝鮮の2000年におよぶ友好の歴史を簡潔に述べた逸文）

奈良に大仏さんがいる。

建立時、大仏は塗金され、金色に光っていた。その黄金を献じたのは陸奥守だった百済王直系の敬福である。資金集めの勸進役は百済貴族の系譜を継ぐ行基だ。行基は日本の土木事業の祖でもある。

大仏建立の聖武天皇と光明皇后は聖徳太子を敬愛し、その心を受け継いだ。聖徳太子は日本仏教の祖であり、日本の心を代表する。ところで、聖徳太子の師は高句麗の名僧、慧慈である。

京都に平安神宮がある。

祀（まつ）られる桓武天皇の母、高野新笠（たかののにいがさ）は百済の王系で、天皇は「百済王らは朕（ちん）の外戚（がいせきなり）」といい優遇した。

大阪には百済川や高麗橋があり、大陸との長年の友好を祝う四天王寺ワッソという楽しいお祭りもある。

日本と朝鮮（韓）半島の友好の歴史は古い。魏志倭人伝によると、卑弥呼は親魏倭王に任じられ親魏大月氏王と並んで、日本、中国、インドという交流の道を開いた。それを支えたのは日本と朝鮮半島との友好である。さらに、本格的な稲作や金属器の弥生文化は朝鮮半島から渡来した。

百済、新羅、高句麗の時代、日本は百済を応援し、新羅と争った。しかし、半島統一後の新羅とは友好を回復している。次の高麗、その後の李氏朝鮮とも友好関係にあった。

秀吉の朝鮮への出兵という愚行があったにもかかわらず、李氏朝鮮との復交がなされたことは幸いである。鎖国時代の日本にとって、李氏朝鮮とオランダは外の世界との貴重な窓口であった。

日本と朝鮮半島は、弥生文化の誕生から明治維新まで、大局的に観れば二千年の間、互いに良き隣人、良き友であった。

いま、南北の対話も始まった。二十一世紀には日本と朝鮮半島で真の友好を築きたい。それは新奇な試みではなく、長い歴史の本流に返ることなのである。